

奈良県立医科大学 学報



救護所前で

CONTENTS

東日本大震災での奈良県救護班に参加して	1~2
副理事長 就任挨拶	2
健康管理センター開設/女性研究者支援センター発足/医療技術センター発足	3
平成23年度入学式式辞	4
新入生挨拶/大学院入試日程	5
クラブ紹介/軽音楽部・卓球部	6
オープンキャンパス実施/公開講座開催	7
奈良県テニス選手権優勝/関西医歯薬ラグビー大会優勝/チェンマイ大学との交流	8
図書館だより	9
研究紹介 化学・生理学第二講座	10~11
平成23年度科学研究費補助金の決定	12~14
ハイブリッド人工神経の開発に成功/医療倫理講習会開催	14
産学官連携だより	15
病院機能評価の認定取得/病院ボランティア"ラポール"10年を記念して/平成23年度看護功労賞知事表彰	16
看護師から/所属紹介	17
フレッシュな同僚からのメッセージ	18~19
日本泌尿器科学会総会受賞/中島佐一学術研究奨励賞受賞/敬禮学術奨励表彰式	20
Report/メディア掲載情報	21
看護師助産師募集/下ツ道/広告	22

July
2011

vol.37

東日本大震災での奈良県医療救護班に参加して

附属病院長 榊 寿 右

去る3月11日にマグニチュード9の大地震とそれによる大津波が東北関東の沿岸部を襲ったことは皆さんの周知のところですが、沿岸部の地域に壊滅的被害を与えました。そして、その当日大学病院として、DMAT (Disaster Medical Assistance Team) をいち早く震災地域に送りました。しかし、DMATの役割は72時間以内の救助であり、72時間が過ぎれば、その主たる役割は終わりになるのですが、医療救護がそれで終わるわけではありません。むしろ、その後の方が大変で、地域医療が回復するまでの間、避難所に腰を据えて、医療を必要としている人たちに対して、あるいは避難で体調を崩した人たちに対処することが課題となります。

宮城県知事から奈良県知事に医療救護応援の要請があって、本学附属病院としてもこのことについては、全面的に協力することになりました。救護班として機能するためには、現地の適切な場所に診療所を立ち上げることが極めて重要です。そこで最初の班員として、震災応援などで豊富な経験がある救急科の西尾准教授（現総合診療科）と畑講師に無理に依頼致しました。3月19日（土曜日）の早朝、第1班は4トントラックと8人乗りのレンタカーで山のような荷物を積んで大学病院の玄関前から出動しました。そして気仙沼市の唐桑地区にある小原木中学の給食場所に奈良県医療救護班を作ってくれました。私も現場を何も知らないでは話にならないと思い、第2班のスタッフとして3月23日から27日までの救護班に加わることにしました。第2班は医師3名、看護師2名、薬剤師1名のメンバーで事務官として奈良県から2人に加わってもらいました。伊丹空港8時15分発の花巻行きに乗り、お昼前に空港に着き、それから車で岩手県の陸前高田を経て唐桑地区に入りました。すでに第1班が小原木中学の学生食堂に診療施設を設営してくれていました。小原木中学の体育館は住民避難所となっており、約220名の人たちが避難していました。気仙沼市内には東京都をはじめ他府県からも医療班が送られてきていましたが、唐桑半島地区には全く医療の手が差し伸べられていなかったため、地区の人たちには大変感謝されました。この医療班は5月末日で終了することになりましたが、それま

でに本学以外にも県内の公的病院の応援を受けながら19班を送ってきました。特にその地域には精神発達障害施設が含まれていましたので、精神科の先生方には大きな負担をかけることになり、病院長として感謝しています。

当初、水道、電気はなく唯一の明かりはこちらが持参した発電機からの電灯であり、暖房は一個の石油ストーブだけでした。服を山のように着こんでの診療ではありましたが、来る人、来る人に心から感謝されました。気仙沼市の基幹病院である気仙沼市立病院は外来も機能しておらず、開業医も家をなくして機能していませんでした。一人が診療にあたり、一人が往診に出向き、一人が避難所を診る状況でした。



救護所薬局

毎日、雪が降って寒かったのですが、みんな頑張ってくれました。また、県から応援に来てくれた事務の人もガソリンの調達や衛星電話で県とのやり取りを一生懸命にやってくれました。

大変寒く、仮設トイレの使い心地の悪さは格別で文明に慣れ切ったものには厳しい状況でした。しかし東北の人たちの我慢強さを目の当たりにし、また彼らからわれわれに寄せられる感謝、感謝の言葉で参加したみんなが“本当に救護班に加わってよかった”と心の底から思ったことと感じています。そればかりか、応援に参加したみんなが“ここにきて心が洗われたようだ、むしろ避難していた人たちの感謝の言葉に、ほのぼのとした何にも変え難い人間としての温かい感情を抱いた”ことだけは確かだと思います。

震災現場に行ってみると景色は、家は失われ、車や船は思いもかけないようなところに打ち上げられ泥に埋まってしまっているというものでした。まさに方丈記の“元暦の大地震”のことを述べている、“山はくずれて河を埋み、海は傾きて陸地をひたせり。土裂けて水湧き出で、巖割れて谷にまろび入るとあり”、そして最後に“恐れの中に恐るべかりけるは、只地震なりけりとこそ覚え侍りしか”という文章を思い浮かべさず情景そのものでありました。改めて大地震の恐ろしさ、大津波の怖さを思い知らされました。

大地震の爪痕が一刻も早く消え去り、東北に真の春がくることを心から祈っています。



老人福祉施設の往診



気仙沼市唐桑地区

夢の実現を

副理事長 橋本 弘隆



本年5月9日付けで副理事長を拝命いたしました。

就任にあたり、学長からは、医科大学として20年後には全国のトップ10を目指しているとの言葉があり、これまでの経験を活かし医大の発展に少しでも寄与できれば望外だと思っていたのが、経験は何の役にも立たず、これは大変な職に就いたと思いが変わりました。

学長は常々、学生諸君に3Yをモットーにとっておられますが、トップ10は正に夢のような目標、しかし、夢の実現のためには、高い志を持つことが何よりも大切、そして「一念、天に通ず」という言葉があるように、教職員が一致団結して、その目標に向けて念じ、精励恪勤すれば必ずや成し遂げられる。たとえ遠く険しい長い道のりになるとしても。

私は、「チーム」という言葉が好きです。一人一人の力は小さいけれど、一人ではたいしたことができないけれど、チームになると、みんなの気持ちが一つにまると1+1が3にも5にもなる。お互いが助け合い、切磋琢磨すれば必ず道は開ける、トップ10は夢ではない。その夢に向け「チーム医大」の一員として努力しますので、皆様方のご指導をよろしくお願いします。

健康管理センター開設

(総務課)

平成23年4月の組織改編により健康管理センターを設置しました。

このセンターは複数の部署にまたがっていた、職員及び学生の健康管理事業等を一元的・機能的に行うことにより健康増進を積極的に図ることを目的としています。

当センターは、感染症センターの三笠桂一教授がセンター長(産業医兼務)として、スタッフは事務職員が専任2名、兼務5名でスタートしました。執務室は大学本館2階の総務課内においています。

具体的な事業としては、定期健康診断・各種健康診断、職場感染防止の観点から抗体検査やワクチン接種推奨、健康診断において要治療や要精密検査となった者への対応、産業医等による健康相談、臨床心理士によるカウンセリング等メンタルヘルス事業などを行っています。

平成22年度に実施した定期健康診断の受診率は、医学科学生97.4%、看護学科生66.2%、職員99.2%となっており未受診者が少なからずいます。また、健診の結果において「要精検」や「要治療」となった者の検査や治療の受診も進んでいないなど、職員や学生の健康に対する意識が十分だとは言えない状況にあります。

当センターはスタートしたばかりです。職員・学生にとって安全で健康に配慮した職場や学校の環境づくりは大学にとって大きな課題です。今後健康管理事業を充実させるため、専門の職員の配置や独自の執務室の整備など課題がありますが、健康増進に関する情報を職員及び学生のみなさんに提供するとともに様々な取り組みを進めていきたいと考えております。

女性研究者支援センター『まほろば』が発足しました

コーディネーター おこし 御輿 くみこ 久美子(健康政策医学)

本年2月に女性研究者支援センター(センター長 喜多英二医学部長)が新設され、そのコーディネーターを務めさせていただくことになりました。日本の大学の女性研究者比率は13.6%と諸外国に比べてかなり低い値です。本学も例にもれず、とくに医学科教員では約11%と低い値です。一方、看護学科教員では87%と女性比率では問題ないものの勤務開始後2、3年以内に辞めていく人がかなりの数に上り、研究継続の上で問題があります。女性研究者支援センター『まほろば』は、女性研究者の増加と研究継続を主な目的として、様々な取組を行おうとしています。

活動内容は大きく分けて5つあります。研究継続上のいろいろな悩みの『相談』、妊娠・出産・子育て・介護と研究との両立を支援する『シンビオティック(共生)・ラボ』、この『シンビオティック(共生)・ラボ』では研究室での人間関係の悪化の場合などのこころの支援も行います。そして、多くの女性達が生き活きと研究に没頭できるための環境整備『企画・運営』や啓発を行う『啓発・広報』、女子学生や中高生が研究者への道を進むように働きかける『女子学生進路選択支援』です。これらの活動をセンター長及び運営委員会の指導の下に、支援員(メンター)である細菌学水野文子先生、内科学第二須崎康恵先生、産婦人科学吉田昭三先生と4人で行っていきます。とても少人数ですが、ほぼ同時に発足した学内の女性研究者連絡協議会の方々のお力も借りながら、他大学の範となるような活動をしていきたいと思っています。

女性研究者にとって研究しやすい環境は男性研究者にとっても良い環境であり、また、良い研究環境の大学は、女性医師や医療専門職の人にとっても働きやすい大学であり、つまりはすべての構成員の能力が十分に発揮できる“皆の笑顔の輝く”職場となると思います。そういう『まほろば』づくりの一翼を担わせていただけることをとても光栄に思っています。

支援センターホームページ <http://www.narmed-u.ac.jp/~josei/index.html>



医療技術センターの発足にあたって



医療技術センター技師長 萱島 道徳(かやしま みちのり)

今年の4月、医療職Ⅱの技師(美男・美女)集団による医療技術センターが発足しました。私は榊センター長のもと、統括責任者としての技師長を拝命することになりました。

当センターは、臨床工学技士、歯科技工士、歯科衛生士、視能訓練士、言語聴覚士、理学療法士、作業療法士、あん摩マッサージ指圧師、臨床検査技師の9職種、総勢50名で構成されています。皆それぞれの科に特化した専門技士であるため、初めの頃は、お互いどんな仕事をしているのか全く分からず戸惑いもありました。最近では、それぞれが持つ難問・珍問・奇問の対策に毎日追われています。今後は、当センターとして一番のセールスポイントである「安全・安心」を提供できるように、技士全員で日々研鑽に励みたいと思います。

そして、私たちの輝く顔を職員の方にも覚えていただければと思っています。みなさん、医療技術センターをどうぞよろしくお願いたします。

平成23年度入学式式辞

諸君は「何か」を持っている



春爛漫の今日この良き日に、医学部医学科113名、医学部看護学科80名、看護学科3年次編入学生11名 合計204名の晴れやかな入学生諸君をこの奈良県立医科大学に迎えることができたのは、私どもの大きな喜びとするところであります。入学生諸君に対し心から「おめでとう」と申し上げるとともに、大学を代表して歓迎の意を表します。折から、校庭の桜も満開で諸君の入学を祝っています。

この晴れの日を迎えられたのは、何よりも諸君のたゆまぬ勉学と心身の錬磨、そして何より夢に向かっての飽くなき向上心が功を奏したものと大変うれしく思います。加えて、厳しく、かつ温かく指導してくださった小学校、中学校、高等学校、そして予備校の先生方、さらに愛情に満ちた応援を惜しまなかったご両親・ご家族や友人のお陰であることも忘れないで下さい。

さて、この度の東日本大震災、大地震と大津波そして原子力発電所の爆発、放射能汚染、この未曾有の災害は私たちを完全に打ちのめしました。愛する肉親や家族、友人を一瞬のうちに失い、住み慣れた家、街、山や川が瓦礫の山となり果てました。

こんな場面をどこかで見たことがあります。遠くは関東大震災や原爆投下後の広島・長崎の焼け野原をモノクロ写真で見ました。近くは、阪神・淡路大震災での倒壊したビルや家々、寸断された高速道路や鉄道をテレビやカラー写真で見ました。そして今回は、家々を町を巨大なアメーバのように飲み込む大津波、望遠レンズで見た原発の爆発の一瞬、不気味に立ち上る白煙や黒煙、そして想定を遙かに超える高い放射能、我々はこんな惨状をリアルタイムで見てしまいました。

これはもう我が国の非常事態であります。私たちはこれからどう立ち向かったらよいのでしょうか？ 今こそ我々日本人の底力が試されているのです。

私たち奈良医大のDMAT（災害派遣医療チーム）は、地震と津波の当日、3月11日の夕方5時には高度救命救急センターの西尾健治准教授をリーダーとする医師、看護師、薬剤師計5名の第一陣が附属病院救急車で出発しました。そして翌日12日のお昼には仙台市に入り、国立仙台医療センターと自衛隊駐屯地で活動を開始しました。第二陣は、12日に出発し、午後からは花巻空港に到着し活動を開始しました。そして、3月17日からは交代で宮城県気仙沼市の避難所に向かい今日も医療活動を行っています。榊病院長も自ら先頭に立って気仙沼に入りました。

世界のメディアは伝えています。日本国民がこの歴史的な災禍に冷静さを保って対応していることに欧米そしてアジアのメディアは一様に驚嘆し、日本人がこうした状況下で略奪や暴動を起こさず、相互に助け合うことは、全世界でも少ない独特の国民性であり、広い意味での日本の文化であり、社会の強固さだと強調しています。

さて、夏の全国高校野球選手権大会でも、東京6大学野球でも優勝を果たした現北海道日本ハムファイターズの斎藤 佑樹選手は、早稲田大学卒業を前に「人は『斎藤は何かを持っている』と言っている」と言い、そして一呼吸おいて「それは仲間です」と言いました。

奈良県立医科大学に入学した諸君に私はここで申し上げたい。「あなた方一人一人は『何か』を持っている」と。

その持っている「何か」とは何でしょうか。

難関である奈良医大医学部医学科あるいは看護学科に合格し、医学者や医師・看護師を目指す諸君の全ては、恵まれた才能を持っています。それはご両親から受け継いだDNAとその後20年に渡る教育や訓練の賜物であり、加えて諸君の平素の努力によってもたらされたものでありましょう。

私が申し上げている一人一人が持っている「何か」とは、その恵まれた才能とは別の「何か」を指しています。それは、いつ、どこで、どんな機会に自覚し、明らかになるのでしょうか？ その「何か」はひとつなのか二つなのか、いやもっと沢山あるのかも知れません。そして、それがすぐに判るのか、もっと後で判るのか、あるいは、とうとう判らなかつたということになるのかも、今は判りません。

諸君は、持っている「何か」を奈良医大合格というこの機会に自覚したかも知れません。しかし、入学生諸君が全ての「何か」を今日までに自覚したり、出し尽くした訳ではありません。私は奈良医大合格が「何か」の全てであるとは到底思えません。「何か」を発見する本当の勝負はこれからであります。

本学の医学生・看護学生として大学生活を正に開始しようとしているこの日、この時、諸君が持っている「何か」を自ら確信し、「何か」が目の前で明らかになる、そんな日がこの奈良医大の学生時代に必ず来るといふ大きな予感を持って下さい。その準備期間はこれまでの中学、高校と受験準備期間で整いました。あとは明日からそれを発見する旅に出るのみです。

大震災やその大きな被災をテレビの画面を通して何度も何度も見た諸君にとっては、早く医師や看護師となって現場で援助したい、活躍したいという「はやる心」を持っていることでしょう。しかし、諸君はまだ医師や看護師の卵にすぎません。どうか決意を心に秘めながら、まずは専門領域の勉学に励んで下さい。

諸君が学ぶここ奈良県は「何か」を持っています。奈良市には1300年前に平城京がありました。ここ橿原市周辺にはそれより古く藤原京、飛鳥京がありました。遷都1300年祭の昨年は、全国から延べ2140万人、メイン会場には363万人もの人々が奈良県を訪れました。ここ奈良は多くの日本人の心をつかむ「何か」を持っているのです。それは大和の歴史であり、大和の文化であり、大和の心であります。諸君はこんな奈良大和、まほろばの地で21世紀の最先端の医学、看護学、医療学を学ぶのであります。

諸君が学ぶことになる奈良医大は「何か」を持っています。66年の歴史、世界水準の医学、高度先進医療や地域医療を支える4,500人の先輩医師と3,600人の先輩看護師、そして教授と教職員、仲間、先輩と後輩であります。

斎藤佑樹選手がそうであったように、諸君一人一人は大きな「何か」を持っています。その「何か」はここ奈良大和の地、ここ奈良医大で大きく育まれようとしています。明日から新しい「何か」を発見する学生生活が始まるのです。6年、4年は短いようで長い学生生活であります。諸君の学生生活の安全と、医学者・医師そして看護師を目指してのそれぞれの生活の中で発見されるであろう「何か」の豊かならんことを祈ります。

新 入 生 挨 拶



看護学科1年 室谷 英里子 (むろたに えりこ)

満開の桜が咲き誇る4月に私たち80名は奈良医大に入学しました。今では学年全体が仲良しで、毎日の学校生活を楽しんでいます。80名全員が「看護師になる」という同じ目標を抱いているので互いに切磋琢磨しながら、知識面の勉強だけでなく、対人関係についても日々学んでいます。これからたくさんの事を学び成長しながら、みんなが1人を思えるような協力できる学年になれるよう4年間を過ごしていきたいと思います。



医学科1年 木下 友希 (きのした ゆうき)

今春、晴れて奈良医大に入学でき、大変嬉しく思います。新しい学びの場で始まる日々に一抔の不安を抱いていましたが、大学生活にも慣れ、勉学や部活動に打ち込み、充実した日々を送っています。私達新入生は、奈良医大の学生であるという自覚と誇りを胸に、互いに切磋琢磨しあって成長し、豊かな人間性を持った医療人になれるよう努力していく所存ですので、先生方、先輩方、温かい目で見守り、導いてくださいますよう、どうかよろしく願いいたします。



新たな学びがあなたを待っています 平成24年度 大学院入試日程

大学院医学研究科 (博士課程)

専攻	募集人員	出願期間	試験日	合格者発表
地域医療・健康医学	7 (名)	第一次募集 平成23年9月26日(月) ~9月30日(金)	第一次募集 10月17日(月)	第一次募集 11月8日(火)
生体情報・病態制御医学	13	第二次募集 平成24年1月16日(月) ~1月20日(金)	第二次募集 2月6日(月)	第二次募集 3月7日(水)
生体分子・機能再建医学	20			

社会人の入学も可能です。

社会人とは、医療・保健・福祉施設、教育研究機関、企業、官公庁等に勤務し、入学後もその職を有する者です。

大学院医学研究科 (修士課程)

専攻	募集人員	出願期間	試験日	合格者発表
医 科 学	5 (名)	第一次募集 平成23年9月5日(月) ~9月9日(金) 第二次募集 平成24年1月30日(月) ~2月3日(金)	第一次募集 9月27日(火) 第二次募集 2月15日(水)	第一次募集 10月11日(火) 第二次募集 3月7日(水)

博士課程と同様、社会人の入学も可能ですが、その場合は平成24年3月31日までに概ね1年以上の実務経験を有することが必要です。

学生募集要項は、学務課教務係で配付しています。

また、ホームページでも確認できます。(http://www.named-u.ac.jp/~jyukuken/)



軽音楽部 「ジャズするべ!!!」

部員:37名
顧問:古家 仁(麻醉科学教授)
主将:松本 武士(4年)
活動内容:ジャズ
練習日:毎週月、木曜日の午後5時からと
土曜日の午後1時から

軽音楽部は放課後に部室と大講堂で練習しています。

私達、軽音楽部はジャズを演奏しております。ジャズは日常生活の中で多く使われており、お洒落なバーではよく流れております。私達はジャズの中でも特にビッグバンド形式で演奏しています。ビッグバンドとはトランペット5人、トロンボーン4人、サクソ5人、ピアノ1人、ベース1人、ドラム1人の約17人で一つの曲を演奏する形式のことで、文字通り大迫力の演奏です。

行事としては、他大学との合同ジョイントコンサートのほかに、老人ホームでの慰問コンサートや部員で旅行に出かけたりしており、秋の定期演奏会がその年の集大成として臨んでおります。

部員の大半は大学から始めた初心者ですので楽器経験は無いけど、ジャズに少しでも興味がある方はぜひ一度軽音楽部の練習にお越し下さい。楽器は一生楽しむことが出来ます。引退後も軽音楽部のOBバンドで活躍されている先輩も大勢いますので、一生楽しめる趣味に出会いたい方はぜひ「奈良医大 軽音楽部」のHPをご覧ください。

<http://hardstrem.web.fc2.com/index.html>



卓球部 「小さな球に大きな夢を」

部員:26名
部長:木村 弘(第二内科教授)
主将:鹿庭 善夫(4年)
活動内容:卓球
練習日:火曜日と木or土曜日

私たち卓球部は医大の体育館で練習しています。部員は全部で26人で、一人一人個性のあるプレーで日々精進しています。大会は夏の西医体、3月の西医歯薬、そして近畿医科学生卓球大会が春・秋の2回、他にも他大学との交流試合が年3回あります。それぞれの試合・大会の後にはレセプションがあり、他大学との親睦を深められるところが卓球部のいいところの一つです。

卓球は生涯スポーツであり、卒業されてからも仕事の合間を縫って続けられている先輩方もたくさんいらっしゃいます。興味のある方は是非お近くの卓球部員に声をおかけください。

●医学科 8月6日(土) ●看護学科 8月7日(日)

オープンキャンパス実施

(学務課)

医学科は8月6日、看護学科は8月7日と学科別にオープンキャンパスを実施します。

実施内容は下記のとおりです。多くの方が参加していただけますよう、お知り合いに声をかけてください。主に高校生及び受験生を対象としますが、どなたでも参加することができます。

また、実施にあたり関係の皆様のご協力をお願いいたします。

◎期 日

医 学 科 平成23年8月6日(土) } 13:00~17:00
看護学科 平成23年8月7日(日) }

◎場 所 奈良県立医科大学大講堂等

◎内 容(一部変更となる場合があります)

- ・学長講演
- ・学科紹介
- ・在校生、卒業生メッセージ
- ・模擬講義
- ・施設見学
- ・相談コーナー



～ボランティア募集～

医学科、看護学科とも、多数の参加者が見込まれます。

在学生で当日の受付、施設見学及び個別相談を手伝ってもらえる方を募集しています。

ボランティアの受付は、学務課厚生・入試係で行っています。ご協力をお願いいたします。

オープンキャンパスと同じ日に下記の産婦人科学講座によるイベントが開催されます。

第2回ひらめき☆ときめきサイエンス —ようこそ大学の研究室へ— KAKENHI

ひらめき☆ときめきサイエンスとは、研究機関で行っている最先端の科研費による研究成果について、小学校5・6年生、中学生、高校生の皆さんが、直に見る、聞く、ふれることで、科学のおもしろさを感じてもらおうプログラムで独立行政法人日本学術振興会の本託事業として採択を受け実施するものです。昨年と同様のテーマにて、今年も産婦人科学講座で開催することになりました。

テーマ：生命の神秘と誕生 —赤ちゃんの発育と子宮の病気—

- 内 容：1. 女性特有の臓器である子宮と卵巣の役割をとともに学びます。
2. 妊娠中の胎児の状態を、超音波画像を用いて紹介します。赤ちゃんの動いている様子や成長の様子をみて生命の尊さを考えてみます。
3. 胎児超音波を、シミュレーション機器を用いて自分で体験します。
4. 若い女性がかかりやすい子宮の病気について、その原因や予防について勉強します。
5. 4の学習から、どのようにしたら大切な子宮を病気から守ることができるかを自ら考えてみましょう。

日 時：平成23年8月6日(土曜日) 10:30-17:00
平成23年8月7日(日曜日) 10:30-17:00
(各日とも同じ内容のプログラムです。)

場 所：奈良県立医科大学基礎医学学校舎 4階会議室

申 込：FAXまたはE-mailにて

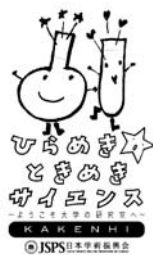
FAX: 0744-23-6557, E-mail: obgyn@naramed-u.ac.jp

FAXにて申し込む方は、申込用紙を奈良県立医科大学産婦人科

ホームページからdownloadして下さい。

申込締切：平成23年7月31日 ただし定員になり次第終了します。

定 員：高校2または高校3年生 女性限定 各日20名



本学主催 公開講座『くらしと医学』開催のお知らせ

下記のとおり開催します。皆様お誘い合わせの上、ぜひご聴講ください。(聴講無料)

日時：平成23年9月10日(土) 13時~15時30分(開場：12時15分)

場所：奈良県橿原文化会館 大ホール(橿原市北八木町)

プログラム：

成人看護学 教授 瀬川 睦子「家族とともに行う緩和ケア —自分らしさの支援—」

第二生理学 教授 高木 都「マウスES細胞 —排便障害治療への可能性—」

病理診断学 教授 野々村 昭孝「メタボリックシンドロームと肝臓 —脂肪肝から肝硬変・肝癌へ—」

http://www.naramed-u.ac.jp/_aff/koukaikouza/



坂田君 優勝! ~奈良県テニス選手権シングルス~



看護学科3年生の坂田郁夫君が平成23年度奈良県テニス選手権のシングルスにおいて優勝し、11月に東京で開催される全日本選手権に出場することになりました。同大会はアマチュアだけでなくプロも出場する国内最高峰の大会です。

「社会人選抜で奈良医大に入学し、日々の勉強はもちろん、テニス部のコーチとして文武両面で充実した大学生活を送っています。大学においては多くの人にお世話いただき感謝していますが、今後とも、この気持ちを忘れず、何事にも全力プレーで取り組んでいきたいと思っています。」(坂田)

第53回 関西医歯薬ラグビー大会“優勝”



(戦績)

一回戦：関西医科大学 39-3
二回戦：滋賀医科大学 17-7
準々決勝：広島大学 14-12
準決勝：福井大学 12-5
決勝：兵庫医科大学 20-18

奈良医大ラグビー部は伝統と栄光のある部活で、これまで数々の偉業を成し遂げています。OBの方々に多くの偉業を聞かせていただきましたが、私を含めた現役部員は、まだラグビー部に歴史が刻めていないことにもどかしい思いをしてみました。しかし、伝統を受け継ぎ、今も昔と変わらぬ熱い思いで、ただひたすらに無我夢中で楕円球を追いつけることだけは忘れずにきたつもりです。かつて30人以上いたラグビー部は今では20人を切り、競技人数15人のラグビーにおいて、ギリギリの人数になっています。そんな中、今年度の関西医歯薬ラグビー大会を迎えました。人数もさることながら、決して強くない私達は、初戦から楽な試合は一つもありませんでした。しかし、試合を重ねるごとに成長し、団結力を高めていき、1ヶ月にも渡る苦しい闘いを制し、5月22日、ついに決勝の舞台に立つことができました。当日は悪天候にもかかわらず、多くのOBやOGの先生方、ご父兄、そして大学の友人が応援に駆けつけてくれました。皆様の熱い声援の後押しもあり、私たちは苦しみながらも、20-18という僅差で

勝利を掴むことが出来ました。言葉には表すことができないほど感謝しております。本当にありがとうございました。もうすぐ夏の風物詩西医体を迎えます。必ず春夏連覇を果たして多くの方々に感謝の意を示したいと思います。これからも奈良医大ラグビー部をよろしくお願いします。(平成23年度主将 竹下宏太郎)

チェンマイ大学との交流

今回で12回目となるタイのチェンマイ大学への学生の派遣が、平成23年3月27日から4月5日の日程で実施されました。派遣された学生は、医学科6年生(派遣当時5年生)の岡本 忠司さん、角田 真貴さん、梶本 昂宏さん、太地 良佑さんの4名です。現地での研修だけでなく、学生との交流や古都チェンマイとバンコクの視察と、充実した日々を過ごしました。

参加した学生からは、「チェンマイ大学の方々はとても友好的で明るく、本当に楽しい時間を過ごすことができました」との声が毎回寄せられています。

今年度も10月頃から参加学生の募集を行う予定です。



連載 電子ジャーナルを使いこなそう! 第2回

ワイリー社「ワイリーオンラインライブラリー (Wiley Online Library)」

前回のエルゼビア社に続き、第2回めはワイリー社(以下W社)の「ワイリー・オンライン・ライブラリー (Wiley Online Library, 以下WOL)」です。

W社は、1,500誌のオンライン・ジャーナルおよび9,000タイトル以上のオンライン・ブックを扱っています。本学では、ジャーナルのうちのSTM (Science, Technology & Medicine) コレクション約800誌にアクセスできます。以前は、「Wiley InterScience (ワイリーインターサイエンス)」というプラットフォームでしたが、インターフェース等が改善されて、昨年8月にWOLはリリースされました。

雑誌タイトルからご覧になるには、当館ホームページ「オンラインジャーナル」からももちろん探していただけますが、WOLトップページ (<http://onlinelibrary.wiley.com/>) 左側中ほどにある「PUBLICATIONS A-Z」からアルファベット順に探していただけます。例えば「Cancer」を探す場合「C」を選びますと、ジャーナルとブックが混在した一覧が表示されますので、右側の「FILTER LIST」の「PUBLICATION TYPE」から「Journals」をクリックしますと、ジャーナル・タイトルだけが表示されます。そのうちアクセスが可能なタイトルのすぐ左には黄色い南京錠が開いたアイコンが表示されますので、目安にいただけます。(図1)

各ジャーナルのページを開きますと、「Recently Published Issues」として最新号 (Current Issue) を含む5号分のリンクが表示されます。すべての発行年へのリンクは、その右側の「See all」をクリックしてください(図2)。すると、「All Issues」の他に「Early View Articles」と「Accepted Articles」というメニューが表示されます。前者は、最新号に掲載待ちの論文を、後者は一部のジャーナルに限られますが掲載が決まった査読済みの著者原稿をそれぞれ見ることができます。

アクセスできる範囲は基本的に1997年以降ですが、以下のタイトルは創刊号からアクセスしていただけます。ただし、アクセスは学内に限定されますのでご注意ください。

- ・Cancer (1948-)
- ・Hepatology (1981-)
- ・Histopathology (1977-)
- ・International Journal of Cancer (1966-)

さらに、最高レベルのエビデンス (科学的根拠) と言われるシステムティック・レビューを収載したデータベースであるコクラン・ライブラリー (The Cochrane Library, <http://www.thecochranelibrary.com/>) もW社から提供されており、当館ホームページ「EBMリソース」からご利用いただけます。

ご不明な点がございましたら、担当(鈴木、内線2293)までお問い合わせ下さい。

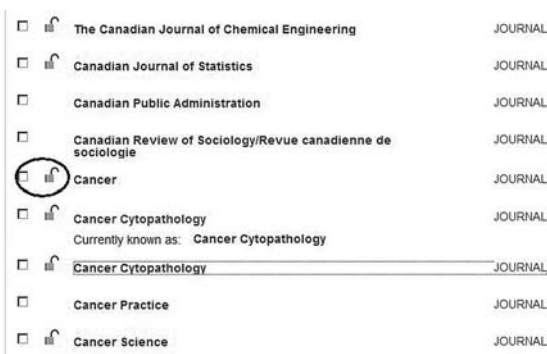


図1

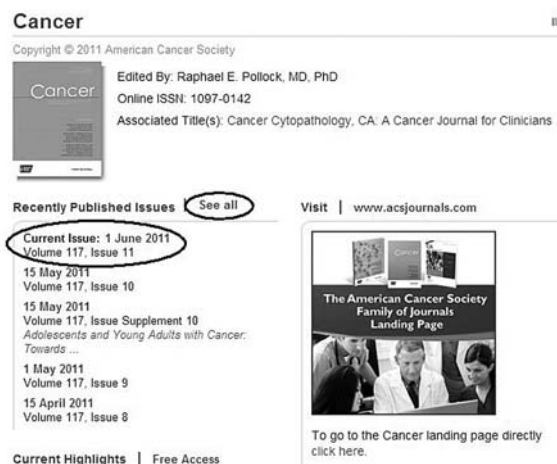


図2

インパクト・ファクターが2010年版に更新!

学術雑誌を評価する上で最も利用されている「インパクト・ファクター(以下、IF)」は、「JCR (Journal Citation Reports)」(トムソン・ロイター社発行)という資料に掲載されていますが、このたび2010年版がリリースされました。

ここで、「Nature」を例にとると、IFは以下の計算式となります。

A = 「Nature」が2008年と2009年の2年間に掲載した論文数 (899+866)

B = 「Nature」が2008年と2009年に掲載した論文が、2010年に引用された延べ回数 (35,110 +28,609)

「Nature」の2010年IF = B/A (36.101)

この資料は毎年更新されますが、2010年版の編集は2011年になってから行われるため、どうしてもタイムラグが半年ほど生じるようです。

当館ホームページ・トップメニューの「オンラインリソース」からリンクしています。

研究生活を振り返って

教授 大崎茂芳



私は、生体組織におけるコラーゲン線維の研究(1)とクモの糸の研究(2)を手掛けてきた。

(1)コラーゲンの研究の発端は線維の配向性(並び方)を調べる新しい方法を開発したことにある。高分子物質の配向性はその機能を反映する重要な因子であるため、その測定は不可欠である。従来多くの方法は測定に長時間要するため、新しい迅速測定法の出現が待たれていた。私は30年ほど前に、迅速で汎用性のある測定法として、世界的に全く新しいマイクロ波方式の配向測定法を見出し、その理論とともに測定機器を開発し(S. Osaki, Nature, 347, 132 (1990))、フィルム、シート、繊維などに適用してきた。なお、開発した装置の売り上額は30億円を突破している。マイクロ波方式が血管、皮膚、骨、肺などの生体組織に適用できることが分かり、医学の分野に線維の配向性という概念を初めて導入することができた。生体組織の機能性はコラーゲン線維の配向性と密接に関係することを突き止めた結果、科学的な皮膚移植法が提案でき、踵骨に加わる応力分布などから、人体のしくみが極めて合理的になっていることを驚きを持って理解できるようになった。

(2)クモの糸の研究は、35年程前に趣味としてスタートしたのが始まりである。分類学が主流の当時では、クモの糸の研究者は世界的にはほとんどいなかった。クモを調べていくうちに生態のみならず糸そのものに数々の面白い性質のあることが分かってきた。その結果、クモの糸に『2』の安全則のあることを見出した(S. Osaki, Nature, 384, 419 (1996))。これは4億年物進化の歴史を持つクモが生き延びてきた危機管理術そのものなのである。クモの糸から得られた危機管理術は、社会科学的にも自然科学の分野にも適用でき、高等学校の教科書『現代文』や大学高校の入試にも多数採用されている。その後、クモの糸に初めてヒトがぶら下がる実験に成功した(2006年)。最近では高付加価値をめざしてクモの糸をヴァイオリンの弦として作り上げることに成功し、クモの糸に独特なヴァイオリンの音色を呈することを明らかにした(2010年)。さらに、クモが夜行性から昼行性へ進化した証拠を見つけることができた(2011年)。

本学在任中に、『クモの糸のミステリー』(中公新書)、『クモはなぜ糸から落ちないのか』(PHP新書)、『コラーゲンの話』(中公新書)、『クモの糸の秘密』(岩波ジュニア新書)等の出版とともにマスコミを通じて、研究成果の一端を社会に発信できる機会を得たことは幸いであった。

私の研究姿勢としては、人の研究の後追いを好まず、実用化を最終目標としつつも、自然科学の観点から基本的な概念を創り上げることに重点をおいてきた。つまり、自然科学のみならず社会科学などへの幅広い分野に適用可能な成果が得られる研究を目標にしてきた。私の研究生活を振り返れば、最近になってやっと物事の本質が分かりかけてきたことから、皮肉にも、今、発展途上というところにある。

自律神経による制御機構の研究

一循環器、消化器等の機能をターゲットに一

教授 高木 都



1) 循環器系の研究:

①世界で唯一のラット血液交叉灌流系

左心室の非線形の収縮期末圧容積関係 (ESPVR) から、収縮時の総機械的エネルギーである収縮期末圧容積面積 (PVA) と1心拍あたりの心筋酸素消費量 (VO₂) を算出し、VO₂-PVA関係の勾配とVO₂切片を求める。さらに新しいパラダイムとしてCa²⁺ 冠動脈注入により増加したPVAから求める収縮性の指標eE_{max}と収縮性の酸素コストを提案した。このユニークな心機能の解析方法による、病態心(交感神経が過剰に働いたモデルなど)、SERCA2a遺伝子導入心やSERCA2a遺伝子トランスジェニックラット心の心機能解析から細胞内Ca²⁺ハンドリング機構にフォーカスを絞って研究を進めてきた。さらにGCaMP 遺伝子トランスジェニックラット心でCa²⁺トランジェントを同時計測する試みも継続中である。

②世界で初めて開発した心筋スライス実験法

静止および機械的無負荷収縮時の酸素消費や独自の運動指標を計測してVO₂-PVA関係(①で求めた)のVO₂切片は、心筋の基礎代謝とCa²⁺ハンドリングに用いられる興奮-収縮連関(E-Cカップリング) に要するエネルギー消費であることを示した。最近では、このスライスで直接細胞内でのCa²⁺動態を解析して、単一心筋細胞では不可能な多細胞標本による新しい視点の研究を継続中である。

③ラット生体位駆出心

左心室圧-容積を同時計測して非線形の収縮期末圧容積関係 (ESPVR) を求め、1心拍あたりの総機械的エネルギー (PVA) や実効動脈エラストランス (E_a) を指標として、病態心(交感神経が過剰に働いたモデルなど) の心機能や、循環器系作動薬や麻酔薬の生体位心への総合効果を研究してきた (麻酔科との共同研究)。

2) 消化器系の研究:

①排便反射【直腸-直腸収縮反射(R-R反射)と直腸-内肛門括約筋弛緩反射(R-IAS反射)】

この反射は、中枢神経系、自律神経系と腸壁内神経系とによって制御されていることを一貫して明らかにしてきた。標準生理学(医学書院)にはこの成果が記載されている。

②腸管切離吻合モデル

直腸壁内神経再生・新生の促進による排便機能の速やかな回復を目指す研究を続けている。この研究は臨床応用に向けて発展している(新規日本特許出願済、現在公開中。公開番号: 2010-105971)。

③腸管運動におけるペースメーカー (c-kit陽性ICC 細胞)機構の解明

遺伝子改変動物やES腸管で腸管運動におけるペースメーカー機構と壁内神経系とのクロストークの解明を続けており、高木が書いた総説は高いダウンロード数を示した。

④ES腸管に壁内神経系を形成する試み

マウスES細胞から胚様体形成期間中にBDNF、5-HT₄ 受容体 刺激薬 を作用させることにより、ES腸管に神経堤細胞の形成を介する壁内神経系 (Ca²⁺イメージング法により生理的に機能することを確認) の分化誘導に成功した(新規日本特許出願済;出願番号:特願2005-59547)。

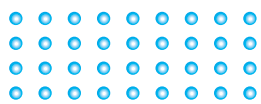
3) その他の研究:

①骨芽細胞と神経細胞(脊髄後根神経節細胞)との共培養系を用いた求心性情報伝達の研究をCa²⁺イメージング法により検討中。

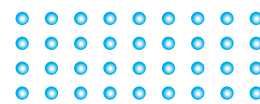
②SERCA2a遺伝子トランスジェニックラットの排尿機能の研究(泌尿器科との共同研究)。

③抗ガン剤による味覚障害の研究(口腔外科との共同研究)。

☆詳しい研究成果は、HP: http://www.naramed-u.ac.jp/_2phy/をご覧ください。



平成23年度 科学研究費補助金の決定



(研究推進課)

平成23年度科学研究費補助金(文部科学省、(独)日本学術振興会)が決定しました。新学術領域研究及び若手研究(スタートアップ)等を除く平成23年5月6日現在の状況は表のとおりです。

来年度に向け、より積極的な申請をよろしくお願いします。

	採択件数	金額	直接経費		間接経費	
			直接経費	間接経費	直接経費	間接経費
H23年度	145件	286,820千円	220,700千円	66,120千円		
H22年度比	+2.9%	+7.9%				
H18年度比	+6.4%	+3.1%				

研究種目	教室名	職名	氏名	研究課題名	研究期間
新学術領域研究	脳神経システム医科学	助教	高橋 弘雄	新生される嗅球介在ニューロンの移動を支える血管-神経相互作用の解析	23~24
基盤研究B	放射線腫瘍医学	特任教授	大西 武雄	放射線適応応答の分子機構の解明	21~23
基盤研究B	消化器・総合外科学	教授	中島 祥介	臓器受容および組織再生における血管新生機構の包括的解明と新規免疫制御法の開発	21~24
基盤研究B	病理病態学	教授	小西 登	前立腺癌幹細胞の効率的な新規獲得法の確立と癌幹細胞維持メカニズムの解明	22~24
基盤研究B	病原体・感染防御医学	教授	吉川 正英	ES細胞由来内耳有毛細胞の効率的な誘導-細胞移植による聴覚機能回復にむけて-	22~24
基盤研究B	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	教授	細井 裕司	超音波聴覚のメカニズムと最重度難聴者のための超音波補聴システムの実用化研究	22~24
基盤研究B	健康政策医学	教授	今村 知明	健康被害事件での社会反応の定量化と過剰反応抑制のためのリスクコミュニケーション研究	23~25
基盤研究B	第一解剖学	教授	西 真弓	幼少期の養育環境が脳の可塑性に影響を及ぼす分子基盤の解明	23~25
基盤研究B	循環器システム医科学	教授	中川 修	転写調節因子による心血管系の発生・機能制御機構	23~25
基盤研究B	放射線腫瘍医学	教授	長谷川 正俊	神経系腫瘍幹細胞の放射線抵抗性と分化に対する重粒子線照射の影響	23~25
基盤研究B	第二生理学	教授	高木 都	光る腸管神経の再生・新生機構の解明と制御	23~26
基盤研究B	産婦人科学	教授	小林 浩	鉄の酸化ストレスによる子宮内膜症のがん化機序の解明とモデル動物の樹立	23~25
基盤研究C	腫瘍センター	准教授	神野 正敏	超音波による分子標的治療増強効果の臨床応用に関する研究	21~23
基盤研究C	看護学科 哲学	講師	池辺 寧	看護倫理学の基礎づけとなるハイデガーの根源的倫理学についての研究	21~23
基盤研究C	分子病理学	博士研究員	藤井 澄	胃癌前癌病変であるテロメア短縮病変における遺伝子異常	21~23
基盤研究C	第一内科学	准教授	上村 史朗	慢性腎臓病に合併する高度動脈硬化症に対する創薬標的としての可溶性FLT1の研究	21~23
基盤研究C	看護学科 臨床病態医学	教授	濱田 薫	妊娠中の大気汚染曝露による喘息発症要因の母子間伝達とその制御機構の解明	21~23
基盤研究C	第一内科学	講師	岩野 正之	FSP1陽性ポドサイトによる糸球体保護作用に関する検討	21~23
基盤研究C	第一内科学	助教	久保 篤史	胚性幹細胞を用いたエリスロポエチン産生細胞の同定と単離	21~23
基盤研究C	小児科学	講師	野上 恵嗣	第VII因子活性化・不活化機構の解明と新規凝固・抗凝固薬への応用に関する基礎的研究	21~23
基盤研究C	精神医学	博士研究員	井上 雄一朗	未分化増殖細胞が摂食行動と体重に与える影響の解析	21~23
基盤研究C	精神医学	教授	岸本 年史	統合失調症患者におけるニューレリン1機能の多角的解析	21~23
基盤研究C	精神医学	博士研究員	法山 良信	統合失調症モデルラットにおけるフォスファチジルイノシトール系の関与について	21~23
基盤研究C	消化器・総合外科学	講師	庄 雅之	消化器癌における獲得免疫機構の解明と外科との融合を旨とした新規治療戦略の開発	21~23
基盤研究C	消化器・総合外科学	研究員	植田 剛	微小重力環境を用いた多能性幹細胞の腸管神経分化誘導による新しい幹細胞移植法の開発	21~23
基盤研究C	消化器・総合外科学	非常勤講師	高 濟峯	血友病根治療法としての異所性生体部分肝移植の可能性	21~23
基盤研究C	集中治療部	講師	河野 安宣	ラット前脳虚血モデルにおけるプロピルガレート脳保護効果に関する研究	21~24
基盤研究C	泌尿器科学	准教授	藤本 清秀	光学的診断を用いた尿中刺腫瘍細胞の遺伝子変異解析システムの開発	21~23
基盤研究C	泌尿器科学	講師	石橋 道男	新規ガンマラクトン化合物とサイトカインにより誘導される腎固有の修復再生機構の解明	21~23
基盤研究C	消化器・総合外科学	准教授	金廣 裕道	組織工学を活用した神経堤幹細胞によるヒルシュスプルング病に対する新たな治療戦略	21~23
基盤研究C	総合医療学	准教授	西尾 健治	ADAMTS13の血液流動下における活性発現と抗炎症作用	21~23
基盤研究C	口腔外科学	准教授	山本 一彦	マイクロRNAを標的とした新たな口腔癌の化学予防法の開発	21~23
基盤研究C	口腔外科学	学内講師	川上 正良	顔面骨格の形態パターンニングを制御する分子機構	21~23
基盤研究C	看護学科 基礎看護学	教授	藤田 比左子	看護職によるスタンダードプレジションの実践内容の修得と継続性に関する介入研究	21~23
基盤研究C	看護学科 地域看護学	講師	入江 安子	知的発達障害児とその家族を支援するコミュニティ・シリアレンスの育成	21~24
基盤研究C	中央臨床検査部	講師	水野 麗子	超音波を用いた心筋のp53およびmTOR制御によるアンチサイクリン毒性の軽減	22~24
基盤研究C	第一生理学	講師	豊田 ひみよ	有尾両生類における性フェロモンの作用機構の解明	22~24
基盤研究C	生物学	教授	永淵 昭良	上皮細胞におけるカドヘリン・カテニン複合体局在化因子の探索	22~24
基盤研究C	第一生理学	教授	山下 勝幸	細胞内カルシウムストアの膜電位変化による細胞間電氣的結合	22~24
基盤研究C	放射線腫瘍医学	講師	玉本 哲郎	モバイル端末を用いた画像誘導放射線治療時代の遠隔放射線治療支援方法の確立	22~24
基盤研究C	病理病態学	助教	中谷 公彦	糖尿病での骨・カルシウム代謝異常におけるKlotho蛋白の意義の解明	22~24
基盤研究C	第一解剖学	講師	秦野 修	新たに見出した雌マウス副腎皮質が大量に産生するプロゲステロンの産生機序と役割	22~24
基盤研究C	輸血部	准教授	松本 雅則	造血幹細胞移植後の致死的合併症である血栓性微小血管障害症に対する新規治療法の開発	22~24
基盤研究C	総合医療学	講師	藤本 隆	シェーグレン症候群の唾液腺障害と再生機構の解明	22~24
基盤研究C	法医学	非常勤講師	石谷 昭子	HLA-Gの移植免疫における機能について-急増する報告の検証-	22~24
基盤研究C	中央内視鏡・超音波部	特任教授	藤井 久男	モサブライドを利用した腸管再生・新手法	22~24
基盤研究C	胸部・心臓血管外科学	教授	谷口 繁樹	三次元培養心筋組織の作成・伸展刺激による細胞の配行と成熟、収縮力の増強	22~24
基盤研究C	整形外科	教授	田中 康仁	再生医療技術を用いた同種骨移植の再活性化に関する研究	22~25
基盤研究C	整形外科	助教	村田 景一	骨髄間葉系幹細胞を用いた血管柄付き自家骨置換型人工骨の開発	22~24
基盤研究C	麻酔科学	講師	井上 聡己	全脳虚血に対するβブロッカーの脳保護に関する研究	22~25
基盤研究C	麻酔科学	准教授	川口 昌彦	脊髄虚血後のミクログリア活性化制御による神経保護効果に関する検討	22~25
基盤研究C	第二生理学	助教	松吉 ひろ子	共培養した膀胱上皮細胞と膀胱知覚神経細胞のクロストーク解析	22~24
基盤研究C	泌尿器科学	教授	平尾 佳彦	睡眠障害は夜間頻尿の原因になるか? 簡易脳波睡眠診断を用いた検討	22~24
基盤研究C	産婦人科学	講師	佐道 俊幸	大豆蛋白を用いた早産予防薬の開発	22~24

研究種目	教室名	職名	氏名	研究課題名	研究期間
基礎研究C	産婦人科学	助教	川口 龍二	プロテオーム解析による子宮内膜症からの卵巣癌発生機序の解明	22~24
基礎研究C	産婦人科学	助教	吉田 昭三	酸化ストレスをターゲットにした卵巣明細胞癌の治療戦略	22~24
基礎研究C	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	准教授	山中 敏彰	最重要平衡障害に対する感覚代償治療一実用化に向けた効果メカニズムの解明一	22~24
基礎研究C	口腔外科学	講師	川上 哲司	関節滑膜細胞におよぼす伸展ストレスの影響:酸化ストレスと遺伝子発現の誘導	22~24
基礎研究C	看護学科 成人看護学	教授	石澤 美保子	クリティカルケア領域における特徴的な皮膚障害の発生要因およびケア内容の検証	22~24
基礎研究C	第二解剖学	准教授	辰巳 晃子	視床下核におけるグリア細胞の機能解析一パーキンソン病新規治療法の開発を目指して一	23~25
基礎研究C	保健体育	准教授	石指 宏道	高齢者における血栓形成関連因子の日内・季節変動の解明	23~25
基礎研究C	健康政策医学	講師	赤羽 学	黄砂による日常症状に見られる健康被害に関する広域調査研究	23~25
基礎研究C	RI実験施設	研究教授	森 俊雄	エストロゲン補充療法誘発4-OH-EH-DNA付加体の難修復性とホストポット解析	23~25
基礎研究C	数学	教授	藤本 圭男	非同型な自己正則写像を持つコンパクト複素多様体の研究	23~25
基礎研究C	第二解剖学	教授	和中 明生	神経再生を阻害する糖鎖修飾メカニズムの解析と人為制御	23~25
基礎研究C	薬理学	教授	吉栖 正典	糖尿病性微小血管障害でのc-SrcとMAPキナーゼの役割解明と分子創薬	23~25
基礎研究C	分子病理学	博士研究員	大森 斉	大腸癌肝転移を促進する骨髄間葉系幹細胞を標的とする治療	23~25
基礎研究C	病理病態学	講師	島田 啓司	膀胱尿路上皮癌におけるDNA修復酵素hAB1-Fam111Aの分子病理学的解析	23~25
基礎研究C	細菌学	教授	喜多 英二	受容体(Gb3)非発現細胞に対し志賀毒素はDL受容体依存性に毒性を発言する	23~25
基礎研究C	健康政策医学	助教	小川 俊夫	自動体外式除細動器(AED)の経済分析に関する研究	23~25
基礎研究C	第三内科学	学内講師	吉治 仁志	慢性肝炎疾患進展制御法の確立:効果予測に基づく個別化医療	23~25
基礎研究C	第三内科学	教授	福井 博	エンドキシリン・自然免疫系を介する腸肝相関の解明	23~25
基礎研究C	第三内科学	准教授	植村 正人	重症肝障害におけるADAMTS13の生体内存在様式と制御機構	23~25
基礎研究C	第二内科学	講師	友田 恒一	細胞壁断裂の機序解明への新たなアプローチ:加齢による肺の力学機能低下を探る	23~25
基礎研究C	第二内科学	教授	木村 弘	呼吸不全、肥満低換気症候群における急性増悪は低酸素化学感受性の低下が関与する	23~26
基礎研究C	輸血部	教授	藤村 吉博	妊娠中に特有な後天性・血栓性微小血管障害症の分子病態とその制御機構解析	23~25
基礎研究C	総合周産期母子医療センター(NICU)	教授	高橋 幸博	トロンボモジュリンによる重症新生児仮死治療の基礎的研究	23~25
基礎研究C	皮膚科学	准教授	小林 信彦	薬劑によるcAMP濃度上昇、CREB活性化と皮膚および神経系細胞のDNA修復亢進	23~25
基礎研究C	皮膚科学	教授	浅田 秀夫	GvHDを病態モデルとして利用したDHSにおけるHIV-6再活性化機序の解明	23~25
基礎研究C	中央放射線部	准教授	田岡 俊昭	拡散テンソル線維路解析とサポートベクトルマシンによるアルツハイマー病の早期診断	23~25
基礎研究C	第二生理学	教務職員	三澤 裕美	ES腸管を利用した選択的神経分化法の確立	23~25
基礎研究C	胸部・心臓血管外科学	講師	吉川 義朗	カルバイン阻害剤による心保存後の虚血再灌流障害予防効果に関する研究	23~25
基礎研究C	胸部・心臓血管外科学	助教	内藤 洋	独創的な組織工学技術を用いた人工気管作成の試み	23~25
基礎研究C	整形外科	准教授	面川 庄平	再生医療技術に応用した四肢の拘縮性偽関節の治療に関する研究	23~25
基礎研究C	中央手術部	助教	阿部 龍一	開頭手術における運動誘発電位モニタリングに関する検討	23~26
基礎研究C	産婦人科学	助教	古川 直人	発現タンパクの機能制御に基づいた婦人がんの分子標的治療戦略	23~25
基礎研究C	産婦人科学	准教授	大井 豪一	羊水塞栓症の致死的原因における胎便の役割を解明する	23~25
基礎研究C	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	助教	太田 一郎	頭頸部癌の浸潤・転移におけるEMTによる癌幹細胞活性化機構の解明	23~25
基礎研究C	口腔外科学	博士研究員	村上 和宏	早期荷重インプラントにおけるオッセointegration獲得のための微小動揺の閾値	23~25
基礎研究C	分子病理学	助教	笹平 智則	新規MIA gene familyによる口腔癌の血管新生・リンパ管新生機構の解明	23~25
基礎研究C	看護学科 母性看護・助産学	准教授	中西 伸子	更年期女性の健康増進に向けた行動変容を促す健康貯金ノートを用いた介入プログラム	23~25
基礎研究C	看護学科 地域看護学	講師	坂東 春美	幼稚園児の家庭内受動喫煙状況と家族の意識一尿中コチニン測定と質問紙調査から一	23~25
基礎研究C	看護学科 精神看護学	助教	倉田 真由美	体系的な生体臓器移植医療システム構築に向けた生体ドナーの位置づけに関する研究	23~25
挑戦的萌芽研究	化学	教授	大崎 茂芳	Gfmsの系的大量収集に向けての新しい技術開発	21~23
挑戦的萌芽研究	消化器・総合外科学	教授	中島 祥介	脾癌幹細胞を標的とした新たなBITE抗体の開発	21~23
挑戦的萌芽研究	集中治療部	研究員	林 浩伸	非眼科的手術後の眼障害についての検討	21~23
挑戦的萌芽研究	看護学科 成人看護学	講師	堀江 尚子	トワイライトホープレスの孤独死の改善を目指したアクションリサーチ	23~25
挑戦的萌芽研究	生化学	教授	高澤 伸	ブドウ糖によるインスリンの翻訳調節機構	23~24
挑戦的萌芽研究	分子病理学	教授	國安 弘基	幹細胞特異的塩基性アミノ酸/酸化の網羅的解析と治療への応用	23~24
挑戦的萌芽研究	細菌学	講師	水野 文子	サルモネラ胃腸炎後脳症発症マウスモデルの作製	23~25
挑戦的萌芽研究	第一内科学	教授	斎藤 能彦	血管新生制御機構に関与する新規遺伝子の同定と循環器疾患における意義の解明	23
挑戦的萌芽研究	循環器システム医科学	教授	中川 修	転写因子機能メカニズムの汎用解析システムの創出	23~24
挑戦的萌芽研究	放射線腫瘍医学	特任教授	大西 武雄	放射線が誘導する生存シグナル抑制機構の解明	23~24
若手研究B	第三内科学	研究員	森岡 干恵	急性膵炎重症化におけるADAMTS13の動態と制御機構	21~23
若手研究B	第二内科学	助教	山内 基雄	閉塞型睡眠時無呼吸症候群における病態多様性と新たな治療戦略一非線形解析を用いて一	21~23
若手研究B	泌尿器科学	助教	鳥本 一匡	SERCA2a遺伝子が排尿機能に及ぼす影響	21~23
若手研究B	救急医学	助教	福島 英賢	全血流動下における血栓形成と炎症の連鎖に関わる分子機構解明	21~23
若手研究B	脳神経システム医科学	助教	高橋 弘雄	マウス嗅覚系におけるCO2センサー細胞の発達と機能の分子機構	22~23
若手研究B	第二生理学	助教	小畑 孝二	全心臓カルシウム動態のエネルギー・イメージングの同時リアルタイム計測法の開発	22~23
若手研究B	地域健康医学	講師	岡本 希	認知機能の非遺伝的危険因子の検討と健康関連QOLへの影響に関する疫学的研究	22~25
若手研究B	地域健康医学	助教	佐伯 圭吾	血圧モニタリングと住宅温熱環境に関する横断研究	22~24
若手研究B	血圧制御学	講師	染川 智	病的心筋リモデリングにおける食塩毒性とグアニリルシクラーゼシグナルの役割の解明	22~23
若手研究B	第一内科学	助教	竹田 征治	腎不全における可溶性F1t-1の動脈硬化制御機序の解明	22~23
若手研究B	生物学	講師	小林 千余子	強制発現系を用いた足細胞分化転換の試みと治療応用を目指した移植アッセイ法の確立	22~23
若手研究B	神経内科学	講師	杉江 和馬	自己食気空胞性ミオパシーの臨床病態解析とオートファジー分子機構の解明	22~24
若手研究B	血栓制御医学	講師	松井 英人	自己血管内皮前駆細胞による血友病Aに対する新規細胞療法法の確立	22~23
若手研究B	病原体・感染防御医学	助教	王寺 幸輝	In vitro発毛システムの開発とWntシグナルによる発毛再生機序の解明	22~23
若手研究B	精神医学	助教	木内 邦明	主観的認知障害(SC)を対象としたアルツハイマー病の早期診断に関する研究	22~23
若手研究B	放射線腫瘍医学	学内講師	浅川 勇雄	画像誘導放射線治療および適応放射線治療における機能画像応用の検討	22~24

研究種目	教室名	職名	氏名	研究課題名	研究期間
若手研究B	胸部・心臓血管外科学	研究員	河合 紀和	三次元構築を持つ組織再生を目指したコラーゲンゲル内における間葉系幹細胞の分化誘導	22~23
若手研究B	脳神経外科学	学内講師	西村 文彦	樹状細胞と養子免疫を用いたマウス脳腫瘍モデルに対する治療	22~23
若手研究B	第二解剖学	助教	奥田 洋明	転写因子OASISによる神経軸索伸長抑制機構の解析と再生医療への応用の可能性	22~23
若手研究B	泌尿器科学	助教	穴井 智	光力学診断を用いた尿中前立腺癌細胞の検出	22~23
若手研究B	分子病理学	講師	千原 良友	膀胱がんにおける尿中DNAメチル化マーカーの臨床的有用性に関する研究	22~23
若手研究B	細菌学	助教	王寺 典子	HLA-E、-Gの脱落膜単核球細胞集団形成機構の解明	22~23
若手研究B	口腔外科学	助教	青木 久美子	フッヒドリン系抗がん剤による味覚障害の発生機序解明と治療法の開発	22~23
若手研究B	看護学科 老年看護学	教授	松井 美帆	施設高齢者の自律性評価尺度の開発	22~23
若手研究B	脳神経システム医学	助教	吉原 誠一	成体新生嗅球介在ニューロンの神経活動依存的発達機構の解析	23~24
若手研究B	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	研究員	松井 淑恵	時系列の聴覚表象に頑健性を与える知覚属性間の交互作用に関する心理物理的研究	23~24
若手研究B	化学	助教	松平 崇	クモの系の紫外線による特異的劣化機構の解明研究	23~24
若手研究B	循環器システム医学	助教	坂部 正英	心臓形態形成における選択的細胞分化誘導とそれに関わる不均一シグナル伝達機構の解明	23~24
若手研究B	地域健康医学	助教	富岡 公子	芳香族アミン曝露作業者の発癌リスクに関する歴史的コホート研究	23~24
若手研究B	法医学	助教	工藤 利彩	アルコールに起因する心血管イベントに対する新たな指標としてのTRPチャネルの役割	23~24
若手研究B	循環器システム医学	助教	林 寿来	細胞移植による血管新生・組織再生における転写調節機構の研究	23~24
若手研究B	精神医学	助教	山内 崇平	統合失調症モデルとしてのオロゴデン・ロサイト障害マウスの検討	23~24
若手研究B	精神医学	助教	鳥塚 通弘	人工多能性幹細胞(iPS細胞)を用いた培養系精神疾患モデルの確立	23~24
若手研究B	第一内科学	助教	岡山 悟志	心臓MRIによるミトコンドリア筋症の病態解明	23~25
若手研究B	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	助教	山下 哲範	骨導超音波補聴器の実用化に向けた語音聴力の検討	23~25
若手研究B	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	助教	西村 忠己	軟骨伝導を用いた新しい補聴器の開発	23~25
若手研究B	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	助教	清水 直樹	視運動性眼球運動に関する神経機構の解明—遺伝子工学的アプローチ—	23~25
若手研究B	口腔外科学	助教	山川 延宏	口腔がんにおけるmicroRNAの抗がん剤抵抗性への関与の検討	23~24
若手研究B	口腔外科学	研究員	上田 順宏	Trksを標的とした口腔癌の抗血管新生・リンパ管新生療法を試み	23~24
若手研究B	口腔外科学	博士研究員	玉置 盛浩	口腔がんに対するMICA遺伝子に関連した新規ペプチドワクチンの同定	23~24
奨励研究	医療技術センター	視能訓練士	梶田 浩三	青色街路灯下における緑内障の視力に及ぼす影響について	23

ハイブリッド人工神経の開発に成功

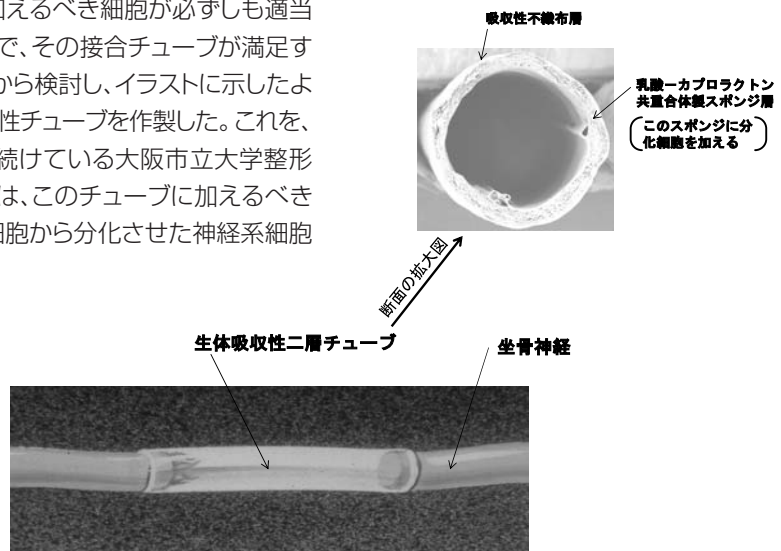
住居医学講座 教授 筏 義人



損傷した末梢神経の再生研究が、以前から国の内外において比較的活発に続けられている。しかし、その研究成果が臨床応用までに進んだ例はさきわめて少ない。その一つの理由は、神経を再生するために必要な人工チューブとそれに加えるべき細胞が必ずしも適当でなかったためである。そこで、その接合チューブが満足すべき条件を医用工学の視点から検討し、イラストに示したような複合構造をもつ生体吸収性チューブを作製した。これを、

十年以上前から共同研究を続けている大阪市立大学整形外科の高松聖仁講師に提供した。高松グループは、このチューブに加えるべき細胞として非自己ではない自己ともいえるiPS細胞から分化させた神経系細胞を用いた。あらかじめ体外において培養しておいた神経系細胞と吸収性チューブとを組み合わせたハイブリッド型人工神経をマウスの後脚に埋め込んだところ、3か月後には歩行能力が回復した。

このように自己細胞ともいえるiPS細胞から誘導した神経細胞を生体吸収性二層チューブに組み込んだ研究は世界でも初めての試みであろう。



神経再生イメージ図

医療倫理講習会の開催のご案内

来る9月6日(火) 17時30分から、臨床第一講義室において医療倫理講習会を開催します。

この講習会は、「臨床研究に関する倫理指針」に規定される「研究者は、臨床研究の実施に先立ち、臨床研究に関する倫理その他臨床研究の実施に必要な知識についての講演その他必要な教育を受けなければならない。」の一環として開催いたします。

講師 東京医科歯科大学 生命倫理研究センター センター長・教授 吉田雅幸 先生

講演内容 未定

産学官連携だより

“なんとかして” (ニーズ) が製品に ステッキホルダーの共同開発

【三晃精機(株)との共同開発製品】

奈良県立医科大学附属病院
共同開発商品

ステッキホルダー

実用新案・商標 取得

ピタ子ちゃん[®]

・ A型 グリップ式

★ 病室や家庭のベッドの

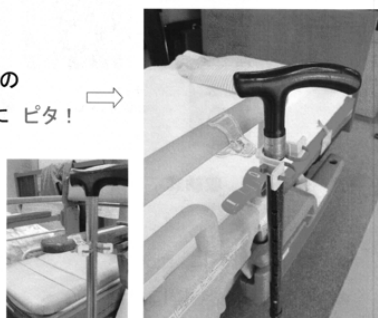
パイプに ピタ!

★ 椅子や机に ピタ!



サイズ 110mm×75mm

定価 ¥1,800円



・ B型 移動用

★ 衣類にクリップして杖を ピタ!

★ 病院のカウンター、ベッドのパイプ等に ピタ!

★ 反射板付で夜間も 安全!



サイズ 270mm×70mm

定価 ¥1,200円



附属病院看護部の西看護師が提案したニーズ(入院患者さんが使用されるステッキが固定できないため夜中に倒れ、大きな音におどろかされる)に基づき、県内の企業2社と西看護師の間で“なんとかして”(ニーズ)を解決する製品の共同開発に取り組んできました。

この度、1社との共同開発の成果としてステッキホルダーが商品化され、弘済団の売店でも販売されています。日常業務における“なんとかして”(ニーズ)が産学官連携に発展、成果(商品化)として実を結びました。日常業務の中に潜んでいる“なんとかして”(ニーズ)は、産学官連携のシーズでもあり、その成果は皆さんの業務負担軽減ともなります。

“なんとかして”に気付かれた時は研究推進課産学官連携推進係(内線2552)までご連絡ください。

Bio Japan 2011 (10/5~10/7 於:パシフィコ横浜) ～ 第一内科学 齋藤教授によるシーズ発表～

BioJapanは1986年の初開催から今年で13回目の開催となる日本においてバイオ関連で最もインパクトのある展示会です。分野も創薬だけではなく機能性食品や医療機器、環境分野まで網羅し、バイオの総合展へと発展しているところで、今年はライフ(医療・創薬、医療機器、機能性食品、化粧品)、グリーン(バイオリファイナリー、バイオマスプラスチック、環境、食料)、バイオクラスター&ベンチャーの3大テーマのもと、様々な企画ゾーンや主催者セミナー等が予定されています。オープンイノベーションを標榜するBioJapanへの参加は、国内外のパートナーとのアライアンス活動に最適な展示会です。

この度、本学の第一内科学齋藤教授の研究グループが開発された“血栓溶解薬剤DDS”に関する技術をBioJapanで発表いただくこととなりました。このような機会を活用することにより産学官連携が進展し、研究活動のさらなる発展が期待されますので、発表を希望されるシーズ情報を研究推進課産学官連携推進係(内線2552)までお寄せください。

病院機能評価の認定取得について

附属病院長 榊 寿右

本年5月に日本医療機能評価機構の方から昨年受診しました評価結果 (Version 6) について認定されたとの報告を受けました。

評価機構による評価を受ける効果と利点については機構のホームページで明記されています。評価機構は医療機関が質の高い医療サービスを提供してゆくための支援を行う目的として設立されました。この機構の評価を受けることにより、わたしたちの病院の現状が客観的に把握されること、また今後病院として改善してゆかなければならない事柄のきっかけ作りができること、効果的で具体的な改善目標の設定ができること、第3者から指摘されることにより問題点について共通した認識を持つことができ、管理者も各部門も改善意欲が向上して主体的な取り組みが期待できることなどが挙げられています。

機能評価は、主として医療安全や患者サービスの観点から、3日間にわたって綿密な審査が行われました。特に医療安全に関しては行き届いたマニュアルが作られ、職員がそれを知り、実行されているかなどを書類、医療現場視察、そして対面質問などで行われました。評価を受ける前の準備や医療安全のための対策については、コンサルタントも入っていただき、病院全体が一体となって対応していただきました。そして病院評価機構からVersion 6の認定がなされたとの報告を受けました。また奈良県立医科大学附属病院は病院をあげて対応していたとの追加的評価も報告されたと聞いています。

Version 6 の認定されたことを大変誇りに思いますと共に、評価を受けるにあたり御協力いただきました病院の全職員に心から感謝申し上げます。



病院ボランティア“ラポール”10年を記念して

病院ボランティアグループ“ラポール”は、平成12年3月に結成され、現在まで多くのボランティアさんの協力のもと活動しています。“ラポール”とは、フランス語で“仲間との繋がり”や“架け橋”を意味し、その名の通り、多くの患者さんと医療者・病院とを繋ぐ大切な存在です。

昨年度は、10年を振り返る意味で、ボランティアさん達が記念誌編集に取り組みされました。その結果、記念誌“ラポールのあゆみ”が完成し、ボランティアさん達の想いやこれまで関わってきた病院関係者の想いがいっぱい詰まった記念誌になりました。

6月からは、エブロンも新たに活動いただいています。

“ラポールのあゆみ”は、病院のボランティア図書コーナーに置いてありますので、ぜひ一度、ご覧ください。



平成23年度看護功労賞知事表彰「(社)奈良県看護協会」

当院から3名の方が受賞されました。おめでとうございます。



写真左から喜多安俊師長 (A棟7階北)、大谷幹代主任 (脳神経外科外来)、今見良江主査 (呼吸器・血液内科外来)

受賞者からひとこと

平成23年度看護功労者知事表彰を5月10日に受けさせていただきました。この受賞にあたり、看護部よりご推薦いただきましたことに深く感謝いたします。

振り返れば、看護師として長い間勤務してこれたのも、いろいろなことを患者さんに学ばせていただき、また上司や同僚のご支援をいただいたおかげだと思っています。

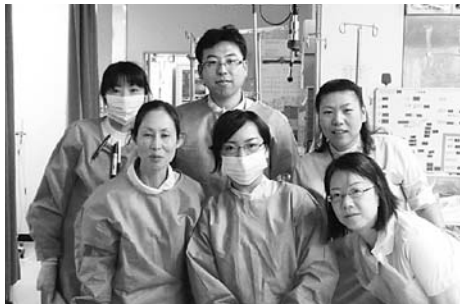
医療、看護をとりまく環境は大きく変化し、非常に厳しい状況でもあります。改めて気を引き締めて、真摯さを忘れず仕事に取り組みたいと考えます。

今後ともご指導よろしくお願い申し上げます。

今見良江、大谷幹代、喜多安俊

上記3名の方は、就業状況が勤勉、かつ、人格が高潔であって他の範となり、看護業務の遂行及び改善、看護技術の向上並びに看護師の育成指導についての功績が顕著であると認められました。

中央内視鏡・超音波部



中央内視鏡・超音波部のスタッフ

中央内視鏡・超音波部は、専任医師各1名（藤井久男病院教授、平井都始子准教授）と看護師10名（消化器内視鏡技師資格取得者4名含む）、洗浄員1名の少数精鋭でアットホームな部署です。今年度から検査技師1名、臨床工学技士1名を迎え、より専門性の高い検査・治療を提供できる体制になりました。

超音波部では最先端の機器を駆使して心臓を除くほとんどの臓器に対し質の高い診断を行っています。また乳腺外来開設に伴って乳腺穿刺細胞診（MMT）も増加しており乳癌の診断に重要な検査となっています。

内視鏡検査では消化器と気管支を観察するだけでなく、早期癌の切除や出血性病変の止血を内視鏡的に行い、診断だけでなく、治療も行っています。

また内視鏡分野において最近の進歩である経鼻内視鏡をいち早く導入し、高度先進医療の内視鏡的大腸粘膜下剥離術（ESD）やダブルバルーン小腸内視鏡検査・カプセル内視鏡検査や超音波内視鏡下穿刺吸引細胞診・生検（EUS-FNA）も行っており、地域連携を通して県内の病院からも広く検査・治療依頼を受け入れています。看護師はチーム医療を担う重要なポストとして、専門性だけでなく幅広い臨床的知識が必要となるため、積極的に研修・学会参加、研究発表を行っています。

23年度4月から、各科外来で行っていた下部消化管内視鏡検査の前処置を中央化し、経口腸洗浄剤の服用管理及び排便管理を内視鏡部で施行することになりました。今後は、ビデオ等を利用したオリエンテーションの充実、前処置の在宅施行の推奨、検査待ち時間の短縮化を目標に、また患者さんに質の高い検査・治療を安全・安楽に受けて頂けるようにスタッフ一同努力していきたいと思っております。

外来1階 外来2階



外来1階のスタッフ

少子高齢化や在院日数の短縮など社会背景の変化に伴い医療の提供形態も変化しています。外来看護や在宅看護に求められるニーズは多様化し、今後とも増大していくと考えられます。当院は特定機能病院に指定されていますが、地域医療の中核的な急性期病院のため1日2000～2500人の患者さんが受診されています。各診療科では一般診療のほかに術後管理・化学療法・検査・処置など多種多様な業務が行われ看護師に求められる実践能力も拡大しています。限られた看護師数でも効果的に人材を活用でき、多様化する患者ニーズに応えられるように平成22年度から外来固定チームナーシングが導入されました。固定チームナーシング導入後、応援機能を活用することで各科外来間での連携が取れチーム力の強化が図れました。各科外来が1つのチームとして「外来看護の質の向上を目指す」という同じ目標に向かって計画実施していくことが強みになっていくと考えています。

現在外来では多様化する患者ニーズに応えるためにジェネラリスト（熟練看護師）の育成を目指しています。外来看護の窓口であるジェネラリストが患者さんの話を聞き療養相談・教育指導へと介入し支援していくことが外来看護の質を向上させることにつながると考えます。また、ジェネラリストは更なる専門性を必要とする患者にはスペシャリスト（専門看護師、認定看護師）への橋渡的存在となりその能力を活用すべくつないでいく、この連携が円滑に行われることが外来看護の質を保障することにつながると考えます。患者さんへの教育指導として1階外来ではリウマチセンターでの生物学的製剤皮下注射の自己注射の指導・手技確認、泌尿器科外来での自己導尿指導を実施しています。本年1月に開設された乳腺外来では術後患者の不安相談や使用する下着や化学療法に備えてのウィッグのアドバイスなど看護師が女性同士という共通点を生かしながら親身に対応しています。またオストメイトの会（人工肛門患者会）やリウマチ教室など患者会や教室の窓口となり患者さんと接する場を増やし患者支援ができる機会を設けています。

2階外来では、5月から新たに、糖尿病センター内に療養指導を行う糖尿病看護認定看護師が配置されました。診療の補助が主体と思われがちな外来看護ですが、循環器・腎臓代謝内科では腎臓病患者への療法選択に関する相談や、腹膜透析患者への指導が行われていたり、小児科外来で血友病患者の自己注射指導が行われていたり、地域で生活する患者さんへのかかわりを意識した看護を積極的に行おうとしています。

今後は、外来でも継続看護を行い、患者さんを受け持つことで、より質の高い看護が提供できればと考えています。



外来2階のスタッフ



患者さんへの指導風景

フシツシユな同僚からのメッセージ！

【臨床検査技師】



中央臨床検査部 血液・一般検査 みやはら ゆみ 宮原 由美さん

4月から中央臨床検査部に勤務しています。最初は分からないことばかりでしたが、先輩方のご指導のお陰で少しずつではありますができることが増えてきました。

私は今、血液・一般検査領域で貧血や白血病などの血液疾患及び止血・凝固の検査を行っています。今いる血液・一般検査を含めて大きく4つの検査領域をローテーションし、色々な検査を経験させていただいています。そして、それらの中から自分の興味の湧くものを見つけて勉強し、技術を研鑽して、その道のプロになりたいと思っています。

まだまだ未熟で至らない点が多く、先輩方に頼りきりの毎日です。特に私はそそっかしいところがありますので、その都度お叱りいただければ幸いです。これから精一杯頑張っていきます。どうかよろしく願い致します。

【放射線技師】



中央放射線部 一般・救急撮影 みなみ しんいちろう 南 慎一郎さん

今年度4月より入職し、中央放射線部で一般撮影業務をさせていただいております。学校を卒業後すぐ奈良医大に来ていますので診療放射線技師としての経験はなく完全な新人でした。入職より2ヶ月が経ちOPE場にも行かせていただけるようになりましたが、まだまだ分からないことばかりで毎日必死に仕事を覚えようと努力しています。良い先輩や上司に恵まれ本当に感謝です。

今はまだ頼りない技師ではありますが将来、先輩方のような「放射線のプロ」「撮影のプロ」になれるようにがんばっていきたくと思います。診療放射線技師はポータブル撮影などでOPE場や各病棟、ICUなどいろんなところで出役しますので、みなさんに関わる機会があるかもしれません。ご迷惑をおかけすることもあるかと思いますがどうぞよろしくお願ひします。

【助産師】



看護部 A棟5階 いなおか なおこ 稲岡 尚子さん

助産師として産科病棟に配属されてから、早くも3ヶ月が経ちました。いまだに分からないことも多く、判断に困ることもあるのですが、先輩方の優しく暖かい指導のもと、毎日必死に業務についています。

奈良医大の産科は、地域の中でもリスクの高いケースも取り扱う総合周産期母子医療センターであり、母体搬送や緊急帝王切開等も多いため、できるだけ早期から母児接触や母乳育児ができるよう乳房ケアなどを行い支援していくことで、お母さん方に少しでも育児にたいして自信をもって退院していただけるよう心がけています。

常に学ぶ姿勢を持ち、1つ1つのことに向き合って精一杯頑張っていきたいと思っています。

【看護師】



看護部 B棟7階 でくち ひろき 出口 大樹さん

4月に入職して早くも3ヶ月が経ちました。

4月の集合研修を終えて病棟に配属されると、覚えることがたくさんあり緊張の連続でしたが、先輩方から毎日指導していただき少しずつ仕事にも慣れてきました。まだまだ分からないことも多いですが、先輩方に助けられながら日々頑張っています。

B7病棟は消化器・内分泌代謝内科で内視鏡治療・放射線治療などが行われています。現在は治療後の患者さんの観察や援助をしていますが、ターミナル期の患者さんも多いためターミナルケアや精神的援助なども必要です。

まだまだ勉強不足ですが患者さんの笑顔を力に僕も毎日笑顔で患者さんと関わり、少しでも患者さんの力になれるよう元気いっぱい頑張っていきたいと思っています。

【看護師】



看護部 C棟7階 よしもと あやか 吉本 安耶香さん

4月に入職しC7病棟に配属され3カ月が経ちました。同期入職の仲間も多く忙しい毎日ではありますが、日々励まし合いながら患者さんの笑顔を励みに頑張っています。

C7病棟には緊急性の高い心疾患の患者さんから生活習慣病での教育入院の方まで様々な患者さんが入院されておられます。初めは心臓カテーテル検査を受けられる患者さんを中心に受け持たせて頂きましたが、今はその他多くの患者さんにも関わらせて頂いています。

自らの知識不足を痛感する毎日ですが、同期の仲間や先輩たちの優しい一言に支えられています。先輩からの熱い指導は、時には厳しく感じることもありますが、早く先輩たちのような患者さんに信頼してもらえる看護師になれるよう日々精進していきたいと思います。

今年、4月に大学職員として、新規採用された方からメッセージをいただきました。

初々しい私達の仲間です。みなさん、応援よろしくお祈りしま〜す。m(_ _)m

【管理栄養士】



栄養管理部 栄養管理係 ^{はやみ} 早味 ^{つかさ} 司さん

今年4月に入社し、栄養管理部で管理栄養士として働いている早味司です。入社が決まった3月11日は東日本で大規模震災が発生し、喜びの反面大きな被害に悲しい1日となりました。被災者の皆様に心よりお見舞い申し上げます。

さて、勤務して3か月経過し、今は先輩の指導のもと給食管理や栄養指導、NST業務などに励んでいるところです。まだまだ未熟なことが多く勉強の日々ですが、やりたかった仕事ができる喜びを強く感じています。また、先輩方の温かく熱心な指導環境は非常に有難く、それに応えられるよう頑張らねばとの思いが強いです。

今後さらに努力し、業務に責任をもてる管理栄養士をめざし成長していきたいです。背の小さい管理栄養士がいれば私だと思いますので、声をかけてもらえれば幸いです。皆様どうぞよろしくお祈りします。

【臨床工学技士】



医療技術センター 医療技術係 ^{やまだ} 山田 ^{かな} 佳奈さん

今年4月に医療技術センターの臨床工学技士として働き3カ月が経ちました。今は、透析室と心カテ室でのアプレーションの業務に従事しています。

初めは業務の流れをつかむこと、作業を覚えることに必死になり、周りの状況が全く把握できていませんでした。また、学生時代に学んだ知識を現場で生かすことができず、簡単な作業でも失敗をすることが多々ありました。しかし、根気よく教えてくれる先輩方、看護師の方々が1つの作業ごとに的確なご指導をして下さり、おかげで、自分自身もより一層透析業務に興味がわくようになりました。

アプレーション業務は今年から臨床工学技士が担当することとなったため、先生方に症例や治療の順序についていつも教えて頂いています。不慣れなことも多く、周りの方に迷惑をかけていますが、日々勉強と思い、業務に勤しんでいます。

いつか自分も先輩方のように患者さんにとって必要とされる医療技術者に成長したいです。

【言語聴覚士】



医療技術センター リハビリ係 ^{おおし} 大西 ^{さおり} 沙織さん

医療技術センターに4月から言語聴覚士として勤務しております。実は日々雇用、嘱託職員と若干の回り道をしておりまして、今年度の新規採用者となることができ、とても感謝しております。

当院では主に脳血管疾患等によるコミュニケーション障害（失語症や構音障害）の患者さんの言語訓練や摂食・嚥下障害の嚥下訓練を主に担当させていただいております。

患者さんが再び、自分の思いや考えを相手と共有できる喜び、口から食事が摂れる喜びのお手伝いが出ればとリハビリテーションチームの一員として日々業務を行っています。

患者さんのコミュニケーションや嚥下機能でお困りの際には、遠慮なくお声をかけて頂ければとてもうれしく思います。今後ともよろしくお祈り申し上げます。

【建築技師】



財産管理課 施設整備係長 ^{いのうえ} 井上 ^{まこと} 誠さん

私は新病棟を除く本学施設整備の建築業務の多くを担当しています。その責任の重さとやりがいを感じながら、皆様のご理解とご協力を得て、任務を遂行しています。

建築の計画・設計・監理等によって学生さんや患者さんと関係者の方々の施設利用、教職員等の皆さんの執務環境をより安全に、より快適にすることが私の業務目的だと考えています。更にそれらのことによって間接的に教育・研究・医療に寄与することができ、今後の都市規模の計画が進めば直接的な地域貢献にもなると思っています。

それらの成果は場合によっては小さく、また長期間かかって初めて確認できるものも少なくありません。目的の達成を見ることができればその大小に関わらず確かな手応えとして新たな業務の糧となるでしょう。

【事務】



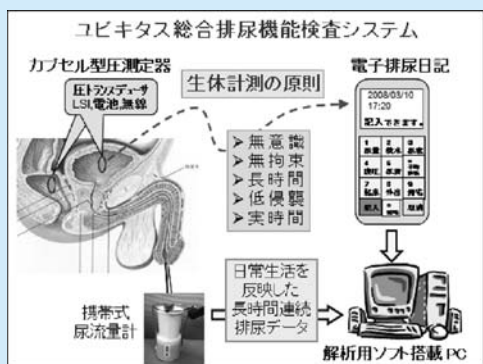
経営企画課 経営企画係 ^{くもん} 公文 ^{かずや} 一哉さん

4月から経営企画課で勤務しています。担当しているのは、病院運営協議会や医局長会議に関すること、予算の執行に関することなどです。初めての地での、初めての社会人生活ということで、当初は不安な部分がありましたが、上司のみなさんと諸先輩方に変えていただき、徐々に慣れていっているところです。

奈良県立医科大学附属病院は、奈良県における基幹病院であり、高度で先進的な医療を提供するとともに、地域医療の中心的存在たることを求められていると考えられ、その使命は非常に大きいものだと思います。「一念一念と重ねて一生なり」という言葉がありますが、日々志をもって職務に当たり、一步ずつ色々なことを吸収することで、大きな使命を持つ奈良県立医科大学附属病院の経営に少しでも貢献できるように頑張りたいと考えております。

日本泌尿器科学会総会・総会賞受賞

奈良県立医科大学泌尿器科学教室 平尾 佳彦



本年4月に開催された第99回日本泌尿器科学会総会（名古屋国際会議場）で発表した「コビキタス総合排尿機能診断機器の開発」が、排尿障害：臨床部門で最優秀演題に選定され総会賞の顕彰を受けました。本研究は、低侵襲で計測自体を意識せず、無拘束で長時間連続測定する生体計測の原則を実現するために、最先端の医工学技術を用いて、在宅で日常生活動作に反映した排尿機能を評価するテレメトリーシステムを開発することを目的としています。測定系は症状を記録する電子排尿日記、携帯式尿流量率測定器およびカプセル型膀胱・直腸内圧測定器より構成されます。3日以上連続して圧測定し体外に双方向通信できるカプセル型圧測定器の開発が最も技術的障壁の高いもので、このために低消費電力の医療計測専用LSI、静電容量式圧センサー、アンテナ等を産学官連携事業として開発しました。この開発研究は、2005年から2010年にわたる文部科学省のけいはんな知的クラスター創成事業、地域科学技術振興事業、さらに都市エリア産学官連携促進事業の助成を受けて、大阪大学、東京工業大学およびマイクロニクス(株)等の協力により18mmx5mmのカプセル内にシステムを実装する最終プロトタイプを作成することができました。今後は、このシステムの検証作業を行い、日常生活を反映した、新たな排尿機能のエビデンスを解明し、これに立脚する診断・治療体系の確立をめざします。

第18回中島佐一学術研究奨励賞の授賞式を開催しました

(研究推進課)

7月6日(水)、第131回奈良医学会（臨床第一講義室）において、中島佐一学術研究奨励賞の授賞式が行われました。今回の受賞者は、第二内科学講座の須崎 康恵助教、耳鼻咽喉・頭頸部外科学講座の太田 一郎助教、中央臨床検査部の水野 麗子講師の三人で、受賞者にはそれぞれ賞状、記念品の楯及び研究奨励金として30万円が授与されました。

引き続き実施された受賞者講演会では、受賞テーマに沿って、須崎助教が「気管支喘息慢性化機序の解明と新規治療法の開発」、太田助教が「がんの浸潤・転移に対するEMTおよびMMPの制御」、水野講師が「糖尿病合併心筋ハイパネーションにおける心筋微小循環調節機構の解明」というテーマで講演されました。

この賞は、故中島佐一名誉教授のご遺族からの寄附金を財源として、医学の学術研究に優れた業績をあげた本学の若手教員に対して授与し、さらなる研究の発展を奨励することを目的としています。

毎年、各所属に応募要項を案内しておりますので、若手教員の積極的なご応募をお待ちしております。



後列：左より推薦者の木村教授、藤本教授、細井教授
前列：左より須崎助教、吉岡学長、水野講師、太田助教

厳樞学術奨励賞の表彰式が行われました

(研究推進課)

6月18日(土)、厳樞会館3階大ホールにおいて開催された、奈良県立医科大学医学部医学科同窓会総会において、厳樞学術奨励賞の表彰式が行われました。

今回の受賞者は第一内科学講座の中川仁氏で、同窓会会長・八木正躬氏より、賞状と副賞の海外留学助成金が授与されました。中川氏は、平成23年10月1日～平成24年9月30日まで、ユリウス・マクシミリアン大学ヴェルツブルグ（ドイツ・バイエルン州）に留学され、本態性高血圧の新たな機序を解明する研究に従事される予定です。

この賞は、奈良県立医科大学医学部医学科同窓会が、母校の発展の一助とすることを目的に、海外において学術の研究、調査等に従事する者に対し、その費用の一部を海外留学助成金として支給しているものです。

毎年、各所属に応募要項を案内しておりますので、積極的なご応募をお待ちしております。



同窓会会長・八木正躬氏より、中川仁氏へ表彰状の授与

承認された規程、委員会名簿等については、随時、ホームページにて公開しています。

学内ホームページURL（閲覧は学内のみ可能）

<http://top.naramed-u.ac.jp/> → 「規程・名簿タブ」

※は、公開ホームページに掲載

<http://www.naramed-u.ac.jp/aff/johokoukai/>

（総務課）

役員会及び教育研究審議会の報告

第1回 役員会（4月6日）

- 1 医師配置システムによるへき地への医師の配置に関する協定(案)を承認
- 2 教育研究審議会予定案件を承認
 - (1) 発明届について
 - (2) 教授選考スケジュールについて
- 3 卒業生の進路等を報告
- 4 入学者の状況を報告

第1回 教育研究審議会（4月7日）

- 1 小林教授（産婦人科学）から提出された発明届について、特許等を受ける権利を承継することを決定
- 2 教授選考スケジュールを承認
- 3 産学官連携推進センター規程の制定について報告
- 4 住居医学共同研究の交付決定について報告
- 5 卒業生の進路等について報告
- 6 入学者の状況について報告

第2回 役員会（4月13日）

- 1 視能訓練士の採用試験の実施を承認
- 2 薬剤師、作業療法士採用試験の応募状況について報告
- 3 第2期中期計画策定スケジュール（素案）について

第3回 役員会（4月20日）

- 1 教育研究審議会予定案件を承認
 - (1) 総合研究施設利用に係る費用負担の見直しについて
 - (2) 病院運営協議会規程、病院医局長会議規程の改正を承認し4月1日付で施行
 - (3) 中央手術棟の整備について報告

第4回 役員会（4月27日）

- 1 教育研究審議会予定案件を承認
 - (1) 教員人事について
 - (2) 新ICT環境について
 - (3) 産学官連携推進センター運営委員会委員の選任について
- 2 精神科における作業療法士の採用について承認
- 3 中期計画推進委員会規程の改正について承認し、4月27日付で施行
- 4 平成22年度 業務実績報告書（案）について意見聴取
- 5 第2期中期計画の策定について報告

第2回 教育研究審議会（4月28日）

- 1 教員人事を承認
- 2 新ICT環境の整備について承認
- 3 総合研究施設利用に係る費用負担の見直しを承認
- 4 産学官連携推進センター運営委員会委員の選任を承認
- 5 平成22年度 業務実績報告書（案）について意見聴取
- 6 中期計画推進委員会規程の変更を報告
- 7 第2期中期計画の策定について報告

第5回 役員会（5月11日）

- 1 債権償却（案）を承認
- 2 地域医療総合支援センターの設置に関する協定(案)を承認
- 3 薬剤師、作業療法士の採用試験の合格者を決定

第6回 役員会（5月18日）

- 1 大学院保健看護学研究科設置に伴う運営組織の規程（案）を承認
- 2 文部科学省科学研究費補助金の採択状況を報告
- 3 病院機能評価の審査結果を報告

第7回 役員会（5月25日）

- 1 中期計画推進委員会規程の改正（案）について承認し、5月25日付で施行
- 2 看護職員採用試験の合格者を決定
- 3 看護職員採用試験（本学学生及び学校推薦）の申込状況を報告
- 4 （仮称）中央手術棟の整備について報告
- 5 大学院（保健看護学科）の設置について報告

第8回 役員会（6月1日）

- 1 平成22年度業務実績報告書(案)を承認
- 2 決算関係書類について報告
- 3 平成23年度授業料減免申請者の状況を報告
- 4 （仮称）中央手術棟の整備について報告
- 5 病院機能評価の認定を報告

第9回 役員会（6月8日）

- 1 教育研究審議会予定案件を承認
 - (1) 教員人事について
 - (2) 教員の海外留学について
 - (3) 教員の再任評価について

(4) 発明届について

(5) 平成23年度講座・教員研究費の配分について

2 職員（視能訓練士・看護職員）採用試験の合格者を決定

3 寄附講座「住居医学講座」の設置期間等の変更について報告

4 （仮称）中央手術棟の整備（院内感染防止委員会からの提言）について報告

第3回 教育研究審議会（6月9日）

1 石坂教授（寄生虫学）から提出された発明届について特許を受ける権利を承継しないことを決定

2 教員の人事を承認

3 教員の海外留学を承認

4 教員の再任評価を承認

5 平成22年度業務実績報告書（案）を承認

6 平成23年度講座・教員研究費の配分を承認

7 医学科入学試験委員会委員の選任を承認

8 中期計画推進委員会規程の改正を報告

9 文部科学省科学研究費補助金の採択状況を報告

10 寄附講座「住居医学講座」の設置期間等の変更を報告

11 大学院（保健看護学研究科）の設置申請を報告

12 平成23年度授業料減免申請者の状況を報告

第10回 役員会（6月15日）

1 なかよし保育園の整備についての基本方針を承認

2 決算関係書類について報告

3 宮城県気仙沼市への「こころのケアチーム」の派遣について報告

第11回 役員会（6月22日）

1 看護職員の採用試験の合格者を決定

2 平成22年度決算を承認

3 平成22年度計画の評価について承認

4 教育研究審議会予定案件を承認

(1) 奈良県立医科大学学則の改正について

5 平成23年10月以降の医事委託契約について基本方針を承認

「メディア掲載情報」をお寄せください ～学報紙面で紹介します～

新聞・雑誌・テレビ等マスコミの取材、テレビ出演、記事を掲載された教職員・学生を、この「学報」紙面で紹介します。

掲載者	掲載メディア	掲載概要
今村知明 教授 (健康政策医学)	NHK 「週刊 ニュース 深読み」 6月4日(土)	「ユッケによる食中毒事件」に関してその仕組みや対策の現状を取り上げる番組で、「事件の背景にある業界の事情」、「生食に対する対策の現状と課題」、「病原性大腸菌の恐ろしさ」などに関して、NHK解説委員とともに専門家としての立場から解説しました。
和田佳郎 講師 (第一生理学) 中尾寛郎、峯昌啓、 植月友彦、名古貴志 (医学科2年)	NHK ニュース(全国版) 「奈良ナビ」(奈良) 「関西845」(近畿) 6月8日(水)	JAXAの「宇宙医学にチャレンジ！」アイデア募集に学生4名のアイデア「指一指のドッキング」が採択され、宇宙船内でその実験をした場合、どのような結果が予想されるかを和田先生と学生が学内で実験する様子が放送されました。
羽竹勝彦 教授 (法医学)	産経新聞 朝刊 7月5日(火)	県内での解剖件数も年々増加し、年130件前後となり、そのほぼすべてを手がける羽竹教授の「遺体の声なき声を読み取る」というテーマで、異状死体の死因究明の現状や法医学の社会への役割が掲載されました。
山中敏彰 准教授 (耳鼻咽喉科・甲状腺外科)	朝日放送 「たけしの健康エンターテイメント! みんなの家庭の医学」 6月7日(火)	山中准教授の本学附属病院における「良性発作性頭位めまい症」の診療が取りあげられ、その病態が耳石粗しょう症(じせきしょうしょう)であることや原因にカルシウム不足や骨密度低下が関係することを論じた山中准教授の論文、コメント及び当院における治療法が紹介された。
	NHK Eテレ 「ここが聞きたい! 名医にQ」 7月9日(土)	先進医療のコーナーで、山中准教授の「平衡感覚における感覚代行技術(人工前庭器)」に関する研究が紹介された。この装置を用いた治療により重度平衡障害をもつ方が劇的に回復し社会復帰できるまでになったエピソードが述べられ、実際に本学附属病院において取り組んでいる治療プログラムやその効果発現の病態が放映された。

このコーナー「メディア掲載情報」は、皆さんからの提供情報に基づき作成します。自薦、他薦を問いません。

【情報提供先】ファックス等により、右記へお知らせください。

法人企画部 総務課 総務係(内線2206) FAX 25-7657

くわしくは、URL : http://top.naramed-u.ac.jp/jimu/soumuka/O3soumu/media_joho.pdf (学内専用)

キャリアの第一歩を当院で始めてみませんか!!

看護師助産師 募集（平成24年4月採用・随時採用）

附属病院見学会やインターンシップ（職場体験）を開催します。ぜひご参加ください。

【病院見学会】	8月10日（水）
【インターンシップ】	7月27・28日（水・木）、8月3・4日（水・木）、 8月11・12日（木・金）、8月17・18日（水・木）、 8月24・25日（水・木）
【採用試験】	7月31日（日）、8月22日（月）、9月4日（日）

必要書類や申込については、看護部ホームページをご覧ください。

URL <http://www.naramed-u.ac.jp/~bosyu/kango/>



下ツ道

（編集後記）

大学では健康管理センターや女性支援センターが開設され、附属病院では病院機能評価（Ver.6.0）の認定を取得しました。新病棟の建設工事も始まり、研究・労働環境の整備が着実に進んでいます。今年の科学研究費補助金獲得数の躍進もその成果だと言えると思います。

今年の夏は“猛暑”に“節電”と、覚悟がいりませんが、力を合わせて乗り切りましょう。

掲載希望の記事等については、各編集委員までお知らせください。

○今村 知明（健康政策医学）
菅平 智則（分子病理学）
藤本 雅文（物理理学）
坂東 春美（地域看護学）
錦 三恵子（看護部）
岡 眞啓（研究推進課）
永井 淳（学務課）
奥田 稔（病院管理課）
前 和之（総務課）
池田 真琴（総務課）
（○印は編集委員長）